

## 平成24年度第6回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成24年10月29日（月） 14時15分～15時55分
- 場 所： 京都市立京北病院 2階大会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世  
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 棚橋 一博, 桑原 安江, 位高 光司,  
山本 壯太, 小西 哲郎, 木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

### 1 開会

### 2 京都市立京北病院視察

### 3 議事

#### (1) 損害賠償額の決定について

原案どおり承認された。

(主な質疑内容)

- ・ 回診用X線撮影装置の機器の特性上、運搬の際、前方の片方側は死角になる。
- ・ 改善策としては、装置に回転灯を付けるとともに、職員にはこれまで以上に注意深く運搬するよう指示した。

### 4 報告等

#### (1) 平成24年度補正予算について

(主な質疑内容)

- ・ 前の車は、15年間使用していた。京北病院には患者送迎用の車が5台あり、毎日稼働しており、年間で4,500人～5,000人程度を運搬している。
- ・ 今後、法人として、計画的な更新も必要かと考えている。

#### (2) 経営状況月次報告（9月分、第2四半期分）について

(主な質疑内容)

##### ○市立病院関連

- ・ 病床利用率が前年度を下回っているのは、平均在院日数が前年比で2日程度短くなっており、それが利用率に影響している。しかしながら、実患者数は減っていない。
- ・ 現在、収益は保たれており、一定評価できるのではないか。市立病院は、都市型急性期病院であり、診療密度が問われる。
- ・ 診療密度を表す指標として、診療単価と看護必要度がある。診療単価は下がっていないので評価できる。看護必要度は身体的な要素と生活の不自由度を合わせて評価し、そのような患者が何%いるかを示すものであり、毎日評価している。7対1看護基準では、看護必要度が15%以上必要となる。
- ・ 現状は、診療単価と看護必要度の上昇度が平行に動いているので、決してマイナスの方向ではないと判断している。

○京北病院関連

- ・ 診療所については、患者が老人施設に入所するなど、利用者が減る傾向にある。診療所は、身近に通院したい人には有効ではある。一方で、京北病院は送迎サービスを実施していることから、検査などの環境が整った病院の外来にシフトしている人も多い。

(3) 京北病院の概要、運用状況について

(主な質疑内容)

- ・ 2015年には、65歳以上の高齢者が30%を超えていると言われている。現在、京北病院が直面している問題は、5～10年後に全国の病院が直面する問題である。京北病院はその先端をいくフロントランナーとして、頑張ってもらいたい。
- ・ さらにニーズが増えても対応できるように頑張ってもらいたい。モデル地域になれば、他の地域からも住みたいと言われるようになると思う。

5 閉会